



まちの出来事や楽しい話題など、皆さんからの情報をお待ちしています。

三農馬術部の感動映画

いよいよクランクイン！

馬術競技界で女王と呼ばれた『タカラコスモス』が、目の病気により視力を失い、三農馬術部に引き取られ、そこで出会った女子部員との心の触れ合いを描く感動の映画が、いよいよ4月中旬に撮影が開始されます。その前段として3月5日～7日に、佐々部清監督が撮影場所の確認を行いました。全国への情報発信、地域づくりの機会として、市民みんなで応援をお願いします。

問い合わせ先

十和田フィルムコミッション事務局
(観光推進課内)

◇会員募集中 (年会費1,000円)



三農の厩舎を見学

土佐町から子どもたちがやってきた！



南部裂織体験

第20次土佐町親善交流使節団(団長竹村土佐中学校長ほか7人)が、2月16日から19日の日程で、十和田市を訪れ交流をしました。

団員はホームステイをしながら、スキー体験、交流の縁となった明治の文豪「大町桂月」の墓参り、十和田湖冬物語の見学、南部裂織体験などを楽しみました。ホームステイ先の家族との触れ合いや、思ったより早いスキーの上達にうれしそうでした。晴天に恵まれたものの「雪の降るのが見たかった」と残念そうに話していました。

法奥幼稚園 ありがとう

3月16日、本年度で閉園となる法奥幼稚園で、卒園式と閉園式が行われました。昭和44年の創設以来、38年間で1,284人が巣立ちました。最後の卒園生の折田瑛貴さんと上道伊吹さん、法奥小学校1年のお兄さんお姉さんや先生がた、そして、お世話になった地域の皆さんに見守られ、閉園のときを迎えました。

式を終えるとみんなで一齐に「ありがとう」と感謝のことばをのべ、幼稚園の思い出を胸に刻みました。



もうすぐ1年生の瑛貴さん(左)と伊吹さん(右)

芸術文化ゾーンだより ⑧

市で整備を進めている野外芸術文化ゾーンについての話題を紹介しています。

～現代アートの世界 ①～

現代アートってなんでしょう。「難解、とっつきにくい」と思われがちな現代アートですが、絵画や彫刻という枠に収まらない多様性がそう思わせるのかもしれませんが、特に、70年代以降に盛んになったのが「インスタレーション」(空間芸術、装置芸術)という空間全体を作品として用いる表現です。映像を用いたビデオアートも60年代以降盛んになっています。

展示場所も美術館や画廊だけでなく、屋外や路上などに広がり、パフォーマンス性も重視されるようになってきました。さらに音や光、においなども利用し、展示物も、ファッションから玩具、自動車など、何でもありの状態になってきました。「美術」ではなく「アート」と呼ばれるのはそのためです。

わたしたちも、新しい「アート」を発見できるかも・・・。

「現代アートの父」と呼ばれる
マルセル・デュシャンの作品
「泉」：1917)をあらわしたポスター
(画像提供：国立国際美術館)



●(仮称)アートセンターの名称は『十和田市現代美術館』に決定！

市民の皆さんから投票していただいた野外芸術文化ゾーン拠点施設(平成20年3月完成予定)の名称について、2月22日に選考委員会を開催。投票上位5点の中から「十和田市現代美術館」に決定しました。

多数のご応募ありがとうございました。

【投票結果報告】

- 投票総数 3,051票
- 上位5点
 - ストリートミュージアム十和田
 - 十和田駒街道美術館
 - 十和田アートミュージアム
 - 十和田市現代美術館
 - トワダアートギャラリー

○名称選定の理由(選考委員長報告より)

- ①展示作品が現代アート作品であり、施設の性格を一番よく反映した名称である。
- ②新しいものにチャレンジし、体験するという趣旨から言えば「現代」という名称がふさわしい。
- ③「美術館」という名前は一般にも認知度が高く、また場所も十和田市にあることが明示され、分かりやすい名称である。

問い合わせ先

企画調整課(☎内線162)